

# LA DOLCE VITA

海とイタリアをこよなく愛し、ワイン、アート、マリン文化に深い造詣を持つ伊藤英一氏。氏がこれまで体験してきた地中海のマリタイムの煌めきを中心に、海と食とボートに関わる彼らのライフスタイルを語る。

text & photo: Eiichi Ito

## #35 コモ湖の至宝「ヴィラ・デステ」

### コモ湖 Lago di Como

ミラノから40kmほど北に位置するコモ湖は、アルプスの氷河によって深く侵食された成り立ちの為、水深は深く、切り立った山々が湖水を取り囲んでいる。そのため湖沿いの家々は、湖畔ギリギリや切り立った山の僅かな土地に張り付く様に建っている。古代ローマ時代から保養地として知られていて、かのシーザーも滞在したと言われているから、その歴史は古い。湖畔のどの道を通っても、建ち並ぶ家々やホテル、ヴィラが美しい景観を作り出している。湖の最南端に位置するコモの街から西側を北上すると、かつての王侯貴族の別邸や豪華なヴィラ、高級ホテルが点在している。



ベッラージオは、人という形の様なコモ湖の二股に分かれたつけ根に位置している。コモの街からは遊覧船でのんびり行く手もあるが、高速船なら40～50分で行く事が出来る。速くにそびえる冠雪したアルプスを眺めながら、湖に面したバルコニーで一杯のスプマンテは格別だ。斜面に張り付く様に並ぶ小粋な店では、意外な掘出し物が見つかる楽しみもある。

### ヴィラ・デステ Villa d' Este

コモの街からも近い湖畔の街チェルノッピオ (Cernobbio) に優美な佇まいを見せる「ヴィラ・デステ」は、世界の湖畔リゾート愛好家にとって、憧れのヴィラホテルである。滞在した5月は新緑が湖面に映り込み、遠くにはまだ冠雪したアルプスの山々がそびえ、その美しさは格別だった。

「ヴィラ・デステ」は16世紀に当時の枢機卿の別邸として建てられ、その後イギリス王妃の別邸となり、19世紀後半にはホテルとして開業したと言う。広大な敷地には、ルネッサンス様式の建物が点在し、素晴らしいイタリア式庭園、幾つもの特徴あるレストランでの食事も格別だ。敷地内のコモシルクの

ショップやブランドショップを覗いたり、毎日の湖畔の散歩では心身共にリフレッシュ。湖水を望むバルコニー付の部屋での日々は、まさに非日常と言うに相応しい時を過ごす事が出来た。

コモ湖に浮かぶ素晴らしいフローティングプールでひと泳ぎ、と言うには少々寒かったが、6面もあるクレイコートでのテニスは、汗をかくこともなく実に爽快だった。次に来る時にはすぐ近くのゴルフクラブでのプレーを楽しみたいと思っている。

メインダイニングでのディナーも楽しみの一つである。ネクタイ、ジャケット着用必須なのがやや型苦しいが、食事は美味しい。ホテルのスペシャリティであるスプマンテ・ヴィラ・デステで作るパルメジャーノたっぷりの



リーディングホテル・オブ・ザ・ワールドの一員であるヴィラ・デステの152室のうち、62部屋がスイートである事が最高級リゾートとしての証となっている。25エーカーの広大な敷地には貸切可能なスモールヴィラも点在し、有名なイタリア庭園のモザイクで飾られたファサードの奥からは階段式の噴水が望める。湖に浮かぶフローティングプール前には真っ白なビーチチェアが湖のコバルトブルーに映え、棧橋からはヴェネツィアスタイルのマホガニー艇で湖畔のヴィラ巡りのクルージングが最高だ。

リゾートは名物料理だ。コモ湖で獲れた淡水魚ミッソルチーノのグリルも絶品。ワインは無論ホテルの名を冠したスプマンテ。ある晩には、ヴァルテリーナ産のピフテカに合わせて、ニーノ・ネーグリのチンクエ・ステッレを。近くのヴァルテリーナ渓谷の険しい段々畑で摘み取られたネッピオーロ種を陰干したこのワインは、ヴェネト州のアマローネをも凌ぐのでは…と思う芳醇さである。

### ヴィラ・デステ周辺へ

ヴェネチアンスタイルのマホガニー製ボートを3時間チャーターしてホテルの棧橋からコモの街へ繰り出した。船着場からすぐのメインストリートでショッピングの後、コモヨットクラブ (Yacht Club de Como) のテラスで

ランチをとった。オードブルのサラダバーヤ、コモ湖で獲れた小魚と海老のフリットが美味かった。90年近い歴史あるクラブのロビーには、往年のコモ湖でのスピードレースの数々のトロフィーが飾られていた。

翌日も再度ボートをチャーターしてベッラージオ (Bellagio) へ。ベッラージオは地中海のリゾートであるサントロペ、ポルトフィーノ、フォルテ・ディ・マルミ、ポルト・チェルボ等に匹敵するヨーロッパでよく知られたリゾートの街だ。かつて車で行った事があったが極端に道が狭く到着までかなり難儀をした。やはりベッラージオへはボートで行くのがベストである。湖畔にはカフェが建ち並び、傾斜地に張り付く様に建ち並ぶ多くのショップを見て回った。ある小さなセレクトショップで、

ナポリ近郊の工房製手縫のカジュアルシューズを買って求めた。イタリアでは全く知らないブランドものを発見する楽しみもある。

こうして5日間をアクティブにリゾートライフを楽しんだのだが、いつかは読書と散歩でのリゾート滞在をする時が来るのだろうか…と言う思いがフツと頭をよぎった。いやいや、やはり最後まで、ゴルフやテニス、ショッピングにクルージングとアクティブに過ごすのが性分に合っている、と思いついたのでした。P.B.

#### Profile

##### 伊藤英一

事業家。ボート歴は10代から既に半世紀以上。欧米の多くのリゾート地を訪れ、その土地の食やワイン、アート、音楽等に触れることを至上の喜びとしている。RIVA と RIB の熱烈な愛好家。